

## 第6回以降の進め方（案）

### 経緯・目的

- スマートフォン等の急速な普及に伴い、「ベストエフォートの通信速度と実効速度の乖離が大きい」といったスマートフォンやモバイルデータ通信に係る苦情が増加しており、利用者が適切なサービスを選択するためには、通信速度等のサービス品質について適正な表示が行われることが必要。
- このため、本研究会において、事業者中立的な実効速度の計測・公表等の在り方について、実証すべき事項を含め検討するとともに、通信速度の広告表示等において実測値を表示・併記する等、利用者に分かりやすく情報提供するための方策を検討し、昨年4月に第一次報告書を取りまとめたところ。
- 今般、本研究会を再開し、一次報告書に基づき実施される実証実験等を踏まえ、計測手法、実施プロセス及び利用者への情報提供手法を確定し、実運用に向けたガイドラインを含む報告書を取りまとめる。

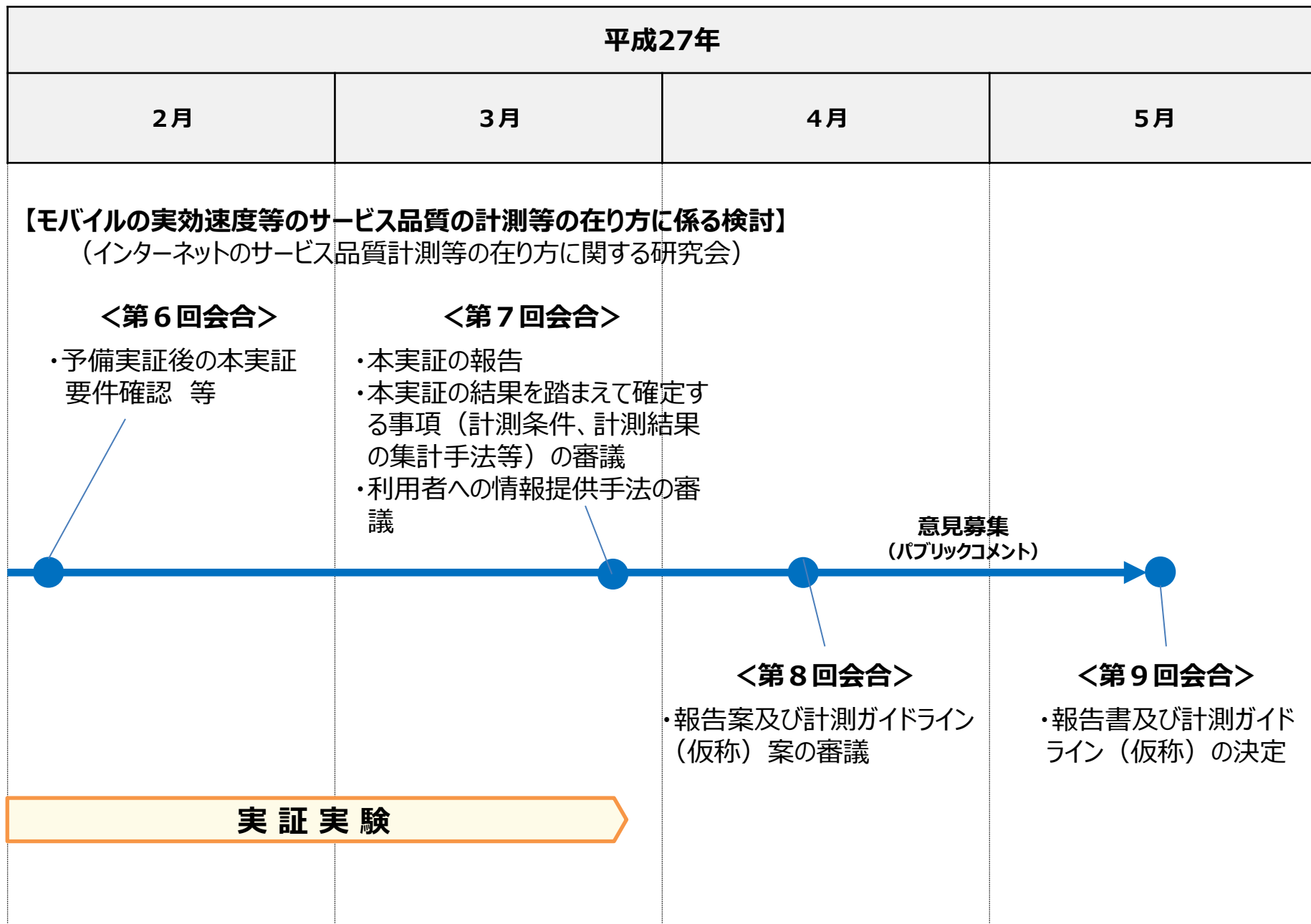
### 主な検討事項

- 計測手法・実施プロセスに係る事項
  - 計測条件・項目
  - データ集計手法
  - 実施プロセスの手順 等
- 計測結果等の利用者への情報提供に係る事項
  - 計測結果の公表方法詳細（集計表示手法等）
  - 広告表示への適用方針（表示項目・手法・媒体等） 等
- その他（実運用に向けて必要となる事項 等）

### スケジュール

本年2月から計4回程度開催し、本年5月を目途に報告書及び計測ガイドライン（仮称）を取りまとめ

# 当面の研究会の進め方とスケジュール（案）



# 実証実験で検証すべき事項 (第一次報告書抜粋)

- **計測手法のうち、計測結果のばらつき等を踏まえて最終決定が必要な事項等については、国（総務省）が実証実験を行い検証**する。
- 上記の実証実験においては、統一的な計測手法による計測の誤差を一定の範囲内に収める等のため、具体的には以下の事項の検証が必要と考えられる。また、検証に当たっては、統計やブロードバンドの品質計測の専門家等の意見を踏まえながら実施することが適当である。
- また、将来の移行を見越した「一般ユーザによるアプリ計測」方式に必要な計測ツールについてもあわせて開発し、同方式の検証に向けた準備を進めることが望ましい。

## 1. 「計測員による実地調査」方式における計測手法

- 計測を行う都市数、地点数
- メッシュ（繁華街・オフィス街、住宅街、駅）の比率
- 計測の対象とするメッシュ（繁華街・オフィス街、住宅街）の閾値（従業者数、常住人口）
- 大都市と地方都市における実効速度の違いの有無
- 一都市における最低限の計測地点数
- 計測地点（オフィス街・繁華街、住宅街、駅）ごとのピーク時間とオフピーク時間
- 計測回数による誤差
- 上下切りが集計結果の精度に与える効果
- 端末の差（対応周波数、通信規格等）が計測結果に与える影響
- その他（モバイルルータによる計測の際の留意点等）

## 2. 諸外国との整合性等を意識した計測ツールの開発（計測員による実地調査方式及び一般ユーザによるアプリ計測方式）、計測サーバの仕様・設置場所等に係る要件

## 3. 計測地点をランダムに選定するソフトの開発 等

## 4. 実効速度を一定幅で表示する場合の集計手法 等